

AI 美芸展「AI 芸術の先駆と拡張」

～自動ピアノ・四分音・生成 AI～

主催 特定非営利活動法人 AI 愛護団体

日程 令和5年9月2日(土)

会場 旧東京音楽学校奏楽堂(上野公園8-43)

この企画は、歴史的建造物である旧東京音楽学校奏楽堂に、自動ピアノと、全ての鍵盤が1/4音ずつ低く調律されている四分音ピアノを持ち込んで開催された、1日限りのコンサートです。また、会場では、生成AIを用いて制作された美術展示やシンポジウムも行われました。

●概要●

会期 令和5年9月2日(土)

会場 旧東京音楽学校奏楽堂

【コンサート】

・第1部-自動ピアノ

演奏曲:コンロン・ナンカロウ

「自動ピアノのための習作」より

・第2部-自動ピアノ+四分音ピアノ

四分音ピアノ演奏:大瀧拓哉

演奏曲:人工知能美学芸術研究会

「2台のピアノのための四分音ハノン」

AI 愛護団体+MusicGen

「自動ピアノと四分音ピアノのための

二重奏プロンプト」

【展覧会】

AI 生成絵画や楽譜、自動ピアノのロール紙などを展示。

【シンポジウム】

出演:柿沼敏江(音楽学者、京都市立芸術大学名誉教授)

中ザワヒデキ、草刈ミカ

(美術家、特定非営利活動法人 AI 愛護団体、人工知能美学芸術研究会)



●開催の様子●

【第1部-自動ピアノ】

ホール中央に設置された1台の自動ピアノ。鍵盤を客席に向けて配置され、左壁面にはピアノ下部のモーターシステム、右壁面には鍵盤手前のピアノロールを捉えた映像が映し出されていました。



ロールがセットされ、しばらくすると無人演奏がスタート。コンロン・ナンカロウ《自動ピアノのための習作》から11曲と、AI 愛護団体が生成 AI を用いて作曲した《自動ピアノのための独奏プロンプト第1番》が演奏されました。誰も舞台に居ない状態で演奏される、不思議な空間でした。



1曲終わるごとにロールは自動で巻き戻され、再びロール交換を行い、次の楽曲に移っていきます。その様子も壁面に映し出された映像で見ることができました。

[ナンカロウ洋子氏からのビデオレター]

演奏の途中では、コンロン・ナンカロウ氏の妻であり考古学者の、ナンカロウ・洋子氏からのビデオレターが上映されました。本企画のために、メキシコの自宅で新たに撮影されたもので、洋子氏は日本語でコンロン氏の制作の様子などについて語られていました。



【第46回 AI 美芸研シンポジウム「AI 芸術の先駆と拡張」】

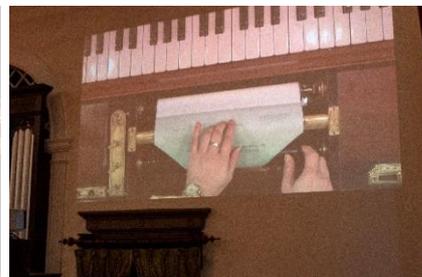


シンポジウムでは、柿沼氏を招き、主催者を含めた3名でトークが行われました。人間の演奏技術の向上から、機械演奏に人間演奏が“追いついていく現在”と、AI 技術の更なる発展から“追いつけなくなる未来”について語られました。また、柿沼氏は、以前行ったコンロン氏へのインタビューについて、手持ちの資料を見せながら語ってくださいました。

【第2部-自動ピアノ+四分音ピアノ】



第2部では、世界初の自動ピアノと四分音ピアノの共演が行われました。
自動ピアノが奏でる音群に大瀧氏の四分音群が重なり、新たな音響世界が広がっていました。
盛大な拍手に包まれ、コンサートは終了しました。



【展覧会】

会場1階の廊下には、今回の企画にまつわる「ナンカロウ」や「四分音ピアノ」などの言葉から、AIが生成したユーモアあるイメージ画や、楽譜などが展示されました。
また今回、旧東京音楽学校奏楽堂の展示室も特別に公開され、その歴史も併せて鑑賞することができました。



2階のホワイエでは、キャンバスタイプの AI 生成絵画やロール紙のほか、映像展示が行われました。
コンサート終了後には、熱心に主催者へ質問している様子も見受けられました。

